

校門坂

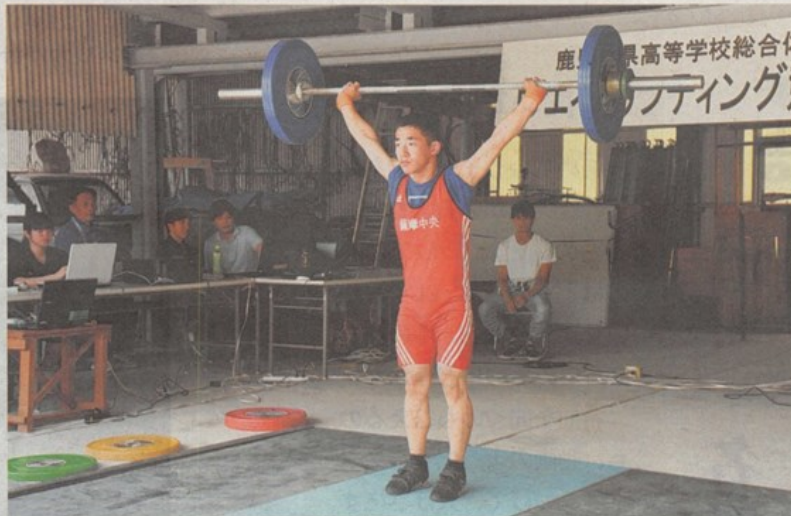
～ 輝く薩摩中央 ～

令和元年5月31日（金） 南日本新聞

本校のウエイトリフティング部が、入来の池畑モータースで最後の公式戦に挑んで励む本校の選手（益選手たち）について、南日本新聞に写真が掲載されましたので紹介します。

薩摩川内の池畑モータース

練習場最後の大会に挑む選手ら＝薩摩川内市入来の池畑モータースウエイトリフティング場



手作り会場で最後の公式戦

重量挙げの各大会が10年以上開かれてきた薩摩川内市入来の池畑モータースウエイトリフティング場で26日、最後の公式大会があった。アトラクタ五輪4位の池畑大さん(48)が家業の自動車整備工場敷地内に手作りしたものの、鹿児島国体を前に、近くの市入来総合運動場体育館に新施設ができ、ひとまず役割を終える。

重量挙げ支えた貴重な場



池畑 大さん

池畑さんはシドニー五輪でも6位に入り、連続入賞した。練習場は選手時代、トレーニングのために造った。シドニー五輪後の国体を最後に引退し、しばらく使っていなかったが、2001年、地元の高橋生に「重量挙げを教えて」と頼まれたのを機に、練習場として再開する。08年には教え子やその家族と、作業して練習場を広げた。同じ頃、県大会で使用していた会場が使えなくなり、池畑モータースが大会会場として使われ始めた。

始めは試合用の備品は何も無く、県協会など関係者と協力し徐々に、電光掲示板やタイマーなどをそろえた。県外の公式会場は立派な施設が多く、池畑さんは「鹿児島の選手が惨めな思いをしないように」と、草刈りや会社の TENT 貸し出しなど、競技しやすい環境を整えた。

開いた大会は50を超え、最後の公式戦となった26日の県高校総体男子と県高校女子ウエイトリフティング競技大会には、男女12人が臨み、好記録も出た。

今後も、練習場として残す。池畑さんは「子どもたちが活躍する姿を見るのはうれしかった。選手も支える側も若手につなぎ、種目を盛り上げていってほしい」と願った。

(五反田和美)